

起案郵紙

大正十年九月十七日起案

起案者
捺印

九月十七日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

起案郵紙(甲)

(主) 軍務局長



第一課長



第二課長



副官



第三課長



大臣

次官

參事官



九月十七日發電濟

九月十七日發電濟
午前十時十分

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
														受月日
														發月日

三小島新司令官宛

次官

三小島新司令官宛
無印符係今府上慶下撤負及春日次務

番一
號二

軍

軍

0735

其他必要な船舶ヲ以テ編成スル臨時ニヨリ之ヲ救接隊ヲ派遣セシメ
 ンルコトナリタリシハ今ヨリ是等ノ臨時工伴ノ援助ヲ必要トモス今
 後ノ情況ニ依リテ一層橋ノヲ特別スル必要ナキトモ計之ルニ付間
 官母峽方面、特に全船ヲ必要トモス時點、同見込ノ備報セタス

0736

海軍 廣島中隊十三行野候

大正十年九月十八日 午後四時五分 司令部發

日 午後五時五十分 海軍省著

發信者 第三水雷戰隊司令官

受信者 次官

電報譯

官房第一一番電返

栗橋 八月十日迄 差遣困難未見返

(紙心重)

0737

わらふこと

海軍 第三十三号

軍務局長 宛

第三十三号

陸田

陸田

陸田

陸田

一九一九年九月十八日

軍務局長

潜水艇隊司令部

(一七五)

九月十八日 午後十時五十分 發

三笠 救難 周 駢 目 下 帶 難 係 守 府 有 り 出 之 得 ん 潜
水 天 二 組 一 二 三 他 隊 守 府 潜 水 大 技 師 方 必 令 命
之 下 其 昭 時 世 軍 工 外 班 ヲ 下 多 ぬ 潜 水 大 汎 遣 方
申 出 ア ン リ 目 下 他 隊 守 府 打 合 中 九 七 及 令 命 工 外 班
者 令 至 急 電 報 乙 度

(一七五)

0738

★

電報

電報

大正十年九月十八日

午後四時五分

局發

海軍

電信十三行電報

受信者 軍務局長

電報

發信者 第三小隊司令部

電報譯

昨如沈船引上作業、今午七時、
付十月十日以後、テハ潜水夫ヲ離角ニ難シ

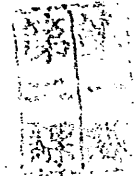
電報

0739

人事局



春日、淀橋十八日午後出港シ得ル見込



陸田

海軍大臣

大正十年九月十七日午後八時十分舞鶴着

舞鶴鎮守府司令長官

0740

軍務局



大正十年九月十七日

午前十時三十分中舞鶴兼
午後一時二十二分海軍省着

海軍大臣

舞鶴鎮守府司令官

臨時三笠救難隊

一、編制

指揮官 春日艦長

艦 船 春日、淀橋（淀橋指揮官日臺大尉）

二、行動予定

廿一日午後五時出發二十日正午遭難地着

淀橋ハ行動差支ナキ限リ先發セシム

三、高橋大佐（良司）松村中佐（和分）鈴木造船

少佐（格司）ハ春日艦長ノ指揮ヲ受ケシム

0741

追テ救難隊ノ出奔ハ潜水夫ノ準備ノ都合上
多少遅ルルヤモ計ラレス為念

0742

軍務局

海軍

大正十年九月

二十一日午前八時三十分

春 日 祭

臨時三笠救難隊指揮官

海軍次官

臨時三笠救難隊報一

本日調査セル左舷側損傷部、状況、既報第五

戦隊司令官、報告ト大差ナシ艦内補強用支柱

増設中尚艦首及右端艦尾ニ繫止錨投下固縛、

必要アルモ海上浪高クシテ實施出來ス風キ次第實

施セントス

0743

模造半葉十二行罫紙

於月十七日

舞鶴鎮守府参謀長

軍務局長宛

澤文

本府ニモ目下派出し得^ル潜水夫ニ細^ク之^ノ事、横須賀
鎮守府、潜水夫援助方照會中ナルモ臨時海軍工作
班ヲ一^ト成^ス多數ニ望^ミ救^フ程^ニ取^リテラ^ル、様^ニ配^慮ヲ乞^フ

了

(納林小)

海軍

0744

模造半葉十一行野紙

横鎮副官より三浦副官宛電話要領

(立本)

舞鶴参謀長より横鎮宛に左記要領、電報あり。

三笠遭難救助隊、潜水夫ヲ要スルに幸鎮守府より二組より外

無キに付但至急借用付度、舞鶴へ到着时尚通知ヲ乞フ

右に對し早速潜水夫ヲ取調ニ処、現在、處十組、不可能に付四組

ヲケ送附スルトシ至急準備中、十九日午前九時四十分

舞鶴へ到着予定

右、趣舞鶴へ回答付ナレバ、参考トシテ爲念通知ス

(終)

(電話通知済)

(納林小)

海軍

0745



大臣宛

舞鏡司令長官



模造中葉十一行罫紙

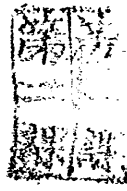
善、横須賀舞鏡守潜水夫到着、都令上、臨時三笠救援
出奔、一九日午後二時（傍櫓今日午前七時）遭難地到着、二十
一日午前七時（アヲ夕ム）

海軍

(納林小)

0746

軍務局



大正十年九月十七日 午後七時三十分 海軍 局發

發信者 夫 日 午後八時五分 局著

受信者 軍務局第一課長

電報譯 暗號

出動準備 十八日午前十時完了スルモ當工廠ヨリ七ノ得シ
潜水夫三組 港務部一組ノミナラズテ 横須賀工廠
廠各十組 潜水夫貸出ニ付 交渉モ之所 吳ヨリ七組
十九日正午 當港着 横須賀ヨリ四組 貸出ニ付
電ニ接シ 依テ任務遂行上 七港ヨリ 日延ニストトセリ
為念



海軍 第三十三行

8'01
出

0747

誠心堂

一等事務
大用
北
之

海

大正十年九月

十八日 午後 時 分 舞鶴局發
午後 〇時五十分 海軍省著

發信者 舞鶴鎮守府司令長官

受信者 大臣

電報譯

臨時三笠救難隊派遣員中 高橋大佐ヲ
削除ス

海 澤 舞鶴 陸軍省第十三行軍線

(陸軍省)

0748

既報云
先刻より大連士官の派遣を命ぜられた

高橋港部長 杉本 吾妻 部長 鈴木 造船少佐

造船技師 一志 等

然るに昨十八日の参事會で登載した中の高橋港務部長又人

(曰其人は従軍船より前より) 腸がつかすと決定の後刻は

の第一を慮り高橋大佐の出張を取止められ既電の通る者

長官は高橋大佐の潜伏期間を過ぎる愈々状態をきり控えては

高橋便して出張を命ぜられた中亦亦認むべきものも福島大佐

出張の年より控えては自然取止めの外無きと存しきりて従

勤心守り高橋港務部長の年々の又と中々困難な如き経験を

大正 年 月 日

銀座 伊東屋製

0750

研

No.

しむるの機を逃す得ざるも亦残念と取せられぬ

若くは警備隊と定めて此の如く作業部会より行なう時は救

難隊總作を急ぎ難隊に編入中村君等の機下、統一させるを

便利の都合とすす由と取存し福島大佐始の此等の作業班等の

事務を振束し乍ら殊に感念深く此の右思見は長官と申上

り之長官と申す感念し右の如く況者より務め又これゆき慮徳の由る

と存し之を以て行申述候先は若くは生業に救難隊派遣の用

務も一際活れり申す存概略の報告書より大少等も早く始末

内田 兼 准 監 長

堀内 軍務部長 閣下

大正 年 月 日

銀座 伊世屋製

0751

起案罪紙

大正十年九月十九日起案

起案者 捺印

月

日發付

發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

起案罪紙(甲)

(主) 軍務局長

副官

第一課長

第二課長

局長

次官

井出

參事官

三浦

人事局長

經理局長

勝

第一課長

水橋

野村

局長

第一課長

第二課長

三浦

野村

水橋

野村

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日														
發月日														

大正十年九月十九日

九月十九日 午後二時五分發電

及水雷部司令官宛

次官

三笠校難、周防、臨時海軍工作班、對、大、通、至、急

官房第一二三

軍

軍

0752

取計し度

(一) 福島の佐(一〇四)ヲ航遊航ニ至急心遣難地ニ派遣

スハット

(二) 西本橋ヲ必要ト叔難人員ト共ニ急運(原)難地ニ廻

航スハット

(三) 間宮世以方面ニ航路探識撤去、間宮世以方面

作書ヲ~~撤去~~経済、又引揚航路始末ニ必要

ヲ取テ限、人員舟般ヲ~~撤去~~右以外、人員舟

般ヲ~~撤去~~三望叔難外書ヲ後身セシムト

右依今申述テ本件、海令部、協働済

0753

軍第一番電報

高橋の電報は司令官宛

軍部宛の電

九月十九日午後三時三分發電

三の電報難の官房第一三 電報の市見報
右の電報の官房上 電報の司令官宛
難の後 電報の官房上 電報の司令官宛
電報の司令官宛 電報の司令官宛
電報の司令官宛 電報の司令官宛
電報の司令官宛 電報の司令官宛
電報の司令官宛 電報の司令官宛

(一由)

起案 野紙(乙)

0754

官房第一二三番電報ノ二

第三艦隊司令長官

海軍大臣官

第五艦隊司令長官

捕鯨長官

一九

次官

九月十九日
午三時五分發電
（未）

三笠收電、同所、又、中、雷、録、以、引、合、官、マ、サ、シ、次、如、下、電

報

0755

起案 郵紙

大正十年九月二十日起案
 起案者 漆印
 九月二十日發付
 發付掛 漆印
 發付後起 漆印
 案者漆印

(主) 軍務局長

大臣

次官

參事官

副官

第一課長
 第二課長
 第三課長

軍務局長
 次長

副官
 第三班

電報

十一年九月二十日

口守之水雷部 司令官宛

次官

番 官房第一一四番電報

三木橋洲 貴見 但之 福島大佐 有上

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
													九九	受月日 發月日

九月二十日
 午三時 甲分 發電齊

第三機隊
 長官
 中由

0756

海

頁

必而為人自ト母ニ

栗木橋ヲ要スルニ礼テ

出立船准下備ヲ完成シ屋カ度

傾注セラント母ニ絶對ニ栗木橋ヲ要セ

トシ度

トシ度

ニ乃三水戰隊第七十五番電ノ件其存

官房第一一四 報三

電報 (一七又)

乃五戰隊司令官宛

次官

九月二十日 午後三時 發電濟

臨時世庫工作班ヨリノ之呈 叔難印書ヲ 赴技ノ 官房一ニ

0757

香濱報ニテ以テ香濱報セシ後、栗橋、今後約一週間
 官世峽方面の普事上手救之難キ事情悦ニル上日第之水害
 難救司令官ヨリ之見具申ニ其之ヲ承認セシメシ但
 救難隊又福島方面現狀調査上ニ要求ニ礼テ之運
 栗橋又必要人員ヲ派遣スル所ノ水害難救司令官ニ
 報指令セシ付テ之ヲ救ヘシ度

香濱報
 栗橋

0758

軍務局



大正十年九月二十日午前

六時三十分 宗谷岬着
八時十五分 海軍省着

第三水雷戦隊司令官

海軍次官

命依リ福島大佐今夜駆逐艦白露ヲ發シ
三日早朝遭難地着ノ予定

栗橋ハ派遣準備中ナリ四番船引揚ニ絶対ニ栗橋

ヲ要スルハ復約一週間ナリ今直ニ栗橋ヲ引抜テハ

四番船ハ放棄セサルヘカラスレハ工作班當年ノ

作業ハ殆ト無効ニ歸シ如何モ残念ナリ併シ

遭難状況ヲ察スルニ福島大佐遭難地着ノ上

其ノ意見ニ從ヒ栗橋及所要人員ヲ送ルモ晚カラ

サルヘシト思考ス今一應御考慮ヲ乞フ

0760

軍務局

大正十年九月二十一日午前七時。合衆谷岬着
十時二十分海軍省着

(在泥港) 第三水雷戰隊司令官

海軍大臣

軍令部長



0762

一 白露、二十日午後十一時福島大佐及職工十

二名、七吋叩筒一台、兼七泥港發二十三時未明

三笠遭難地着、予定

栗橋、二十七日遭難地、向ヶ北水道着、予定

大瀬丸及鐵馬丸型一連、十月五日、十月十日迄、

遭難地、北水道、着、得々見込北便、

第二艦長、大部令、派遣、

第一艦長、福勢、伏見、

海軍大臣



第一艦長



第二艦長



第三艦長



第四艦長



第五艦長



第六艦長



起案郵紙

大正十年九月二十六日起案
起案者 捺印

九月二十一日發付
發付掛 捺印

發付後起
案者捺印

起案郵紙(甲)

(主) 軍務局長 濟

副官

第一課長
第二課長

次官

參事官

人事局長

第一課長

司員

司員

司員

經理局

勝

第一課長

野村

野村

第二課長

野野

野野

電報(暗號)

九月二十一日
午後五時三十分發電濟

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日														
發月日														

經理局
10.9.26
接受

0763

第五戰隊司令官
大正十年九月二十六日
大正十年九月二十六日

次官

三三三校雖仍甚手、月滿た進揚、期るる為、臨時三三三校雖依、

番
機密第一六九
電報

手

手

1172

海軍

編輯ノ改メ現状ニテ福島ヲ先ニ指揮官トシ富士春日ノ次
 擧等ニ編成シ無印管轄守府直連ノ現任者有リ又漸次來着
 ステ臨時工印班員ノ之ニ加テ~~事務~~事務(一)ノ家定トシテ
 此處ニ希望トシ見テ~~事務~~事務(一)ノ家定トシテ
 二右ノ所ノ大件第知トシテ度

(一)臨時工印班員ノ舞鶴管轄守府新トス

(二)春日ノ海軍省参加ノ為十月月中旬迄ニ引上ル文要ヲ

(三)富士ノ十月末迄印班員ノ後身セシメテ度

(四)石見ノ十月中旬迄ニ浦潮有家定

(五)石見ノ石見ノ海軍省家定トシテ家備航ノ指定家定

0764

軍務局

大正十年 九月 二十七日

日 午後四時四十分
日 午後七時 分

舞鶴局發
海軍省著

發信者 舞鶴鎮守府參謀長

受信者 次官

電報譯

官房機密第一六九番電返

異議無し

臨時三空枚難原編制及分件

海

軍務局
海軍省
大正十年九月二十七日

軍務局印
7.8.28

0765

供覽

艦政本部

務

第一七五號

大正十年九月三十一日

舞鶴鎮守府司令長官佐藤鐵太郎

海軍大臣男爵加藤友三郎殿

臨時三笠救難隊員左ノ通

臨時三笠救難隊指揮官

第一課長 海軍大佐 高橋宗三郎

第二課長 春日乘員

第三課長 救難隊指揮官 藤谷幸之助

總務部長 第四部長

10.9.30

10.9.28

本艦 10.9.29 受接

0766

紙用箋附省軍海

大正十年

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

0766 10.9.29

本艦
10.9.29
受接

紙用箋附省軍海

大正十年十月三日
海軍省軍務局

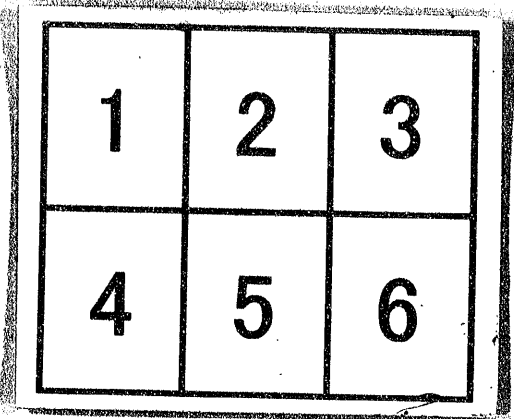
他、引揚

0767

主計大尉	輝醫中尉	輝醫少佐	機関大尉	機関中佐	中尉					大尉		
内山敬名	两宮修象	吉田六三郎	小野庵	後藤弥一	橋本西一	田中喜八	内田亮之輔	沙崎佳	一法師喜雄	浅野千之介	岡野一幹	阿部嘉輔
(専主計長)		(専務医長)	(専分隊長)	(海兵団分隊長)			(海兵団分隊長)		(兵庫分隊長)			

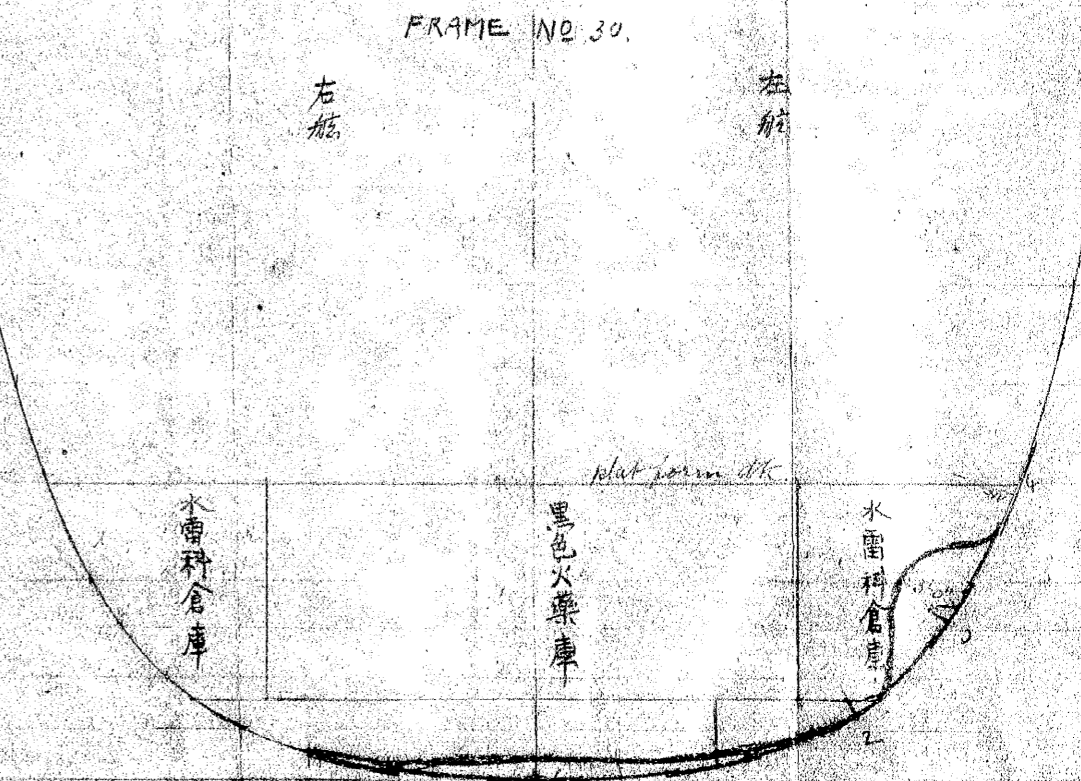
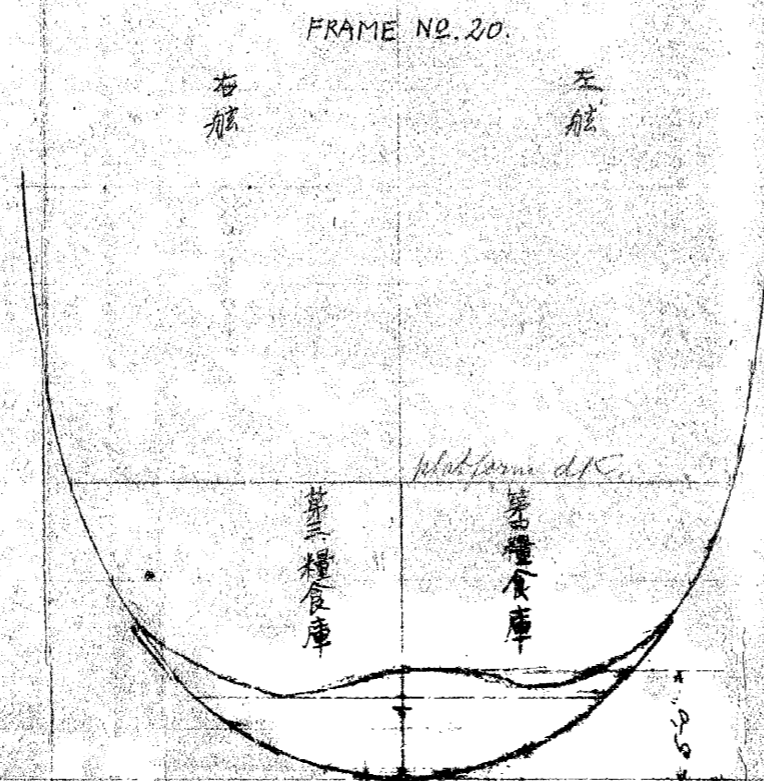
0768

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0769
0770
0771
0772
0773
0774

右舷



左
八
輝
砲
彈
庫

左
八
輝
砲
彈
庫

1
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z

41 26				558 391				
年一 獨	下 官 兵	准 士 官	機 関 特 務 少 尉	三 遊 橋	下 士 官 兵	准 士 官	核 心 特 務 尉	主 計 少 尉
40 名	40 名	1 名	亦 所 藤 武 義 (特務部尉)	日 臺 虎 沼 (防備隊分隊長)	50 58 名	10 6 名	般 沼 良 雄 (母藝乘他)	前 川 宗 太 郎 (海軍少尉)
							池 田 繼 次 郎	石 飛 義 郎

0775

右報告ス

○横須賀工場
○吳工手廠
○舞鶴工手廠

二〇名

一三名

一〇九名

園工三名

級

西村納

20
44
113
177

109
4
113

0777

44
28
177

海軍

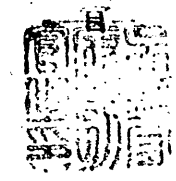
吳鎮機密第九二二號

大正十年九月二十四日

吳鎮守府前

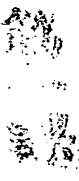
海軍省副官殿

海軍省



三等救難ノ爲潜水夫派遣ニ論スル件

本月十七日吳鎮機密第九二二號ノ二報告三笠救難ノ爲潜水夫派遣ノ件左記中「潜水夫」ノ「研」ノ「研」ニ「技手一名」ノ一行ヲ脱シ候條追加方可然御取計ヲ得度
右 依 頼 ス



【終】

0778

大正十年九月二十九日

舞鶴鎮守府副官
海軍省副官殿

臨時三笠救難隊員ノ件

舞鶴機密第二七五號ノ以テ本府長官ヨリ
海軍大臣宛報告ノ外左記ノ通致遣致
サレ候條本件一追加方御取計相
成度
右照會ス

七五號ノ五

0779

10.10.49

紙 罫 案 起

大正十年十月三日 起案者 案者捺印 發付後起 案者捺印

(主) 軍務局長

加内

第一課長

野村

官房

次官

發出

參事官

副官

野村

人事局長

第一課長

野村

經理局長

第二課長

野村

第四部長

總務部長

野村

第三課長

野村

第一課長

野村

大正十年十月三日

十月三日 午後三時五分 發電濟

西野窪信守存司令長官宛

大臣

一、臨時三望校難冰、三望校難小共業ヲ取止メ便宜

官房第一二二番電報

事

直

局、部	受月日	發月日
官房		
軍務		
人事		
艦政		
機關		
醫務		
經理		
法務		
技本		
東海部員		
富井部員		
教習		
臨建		
水電		
軍令		
總豫算		

0781

無霜倉庫地、端屋(端屋)筋氷セシニ採取計ニ

ニ臨時之旨ニ取難氷、行動ノ像定セシノ報生ルニ

右川令ス

追テ三旨取難氷員中無霜倉庫工廠横須賀

世軍工廠、吳世軍工廠ヨリ派遣ノ技手及職工

浦潮斯德ニ於留ニ第五財氷司令官ノ命ヲ承ケ

三旨修理ニ從事セシニ候ト心得ニ

官房第一二一電報三電報(平文)

大正十年十月

大臣

十月三日 午後三時十分 電報濟

第一航氷長官 宛

第五財氷司令官

横須賀長官

茨田納

0782

臨時之望 叔雅之詞 無庸雀集 守存司合之長官之次ノ由
訓令セリ 以上自心得

起案罪紙(七)

0783

軍第二三番電報

軍務局長濟

第一課長

馬場

（一〇）十一

無庸多保良

一完

馬場

五月三日

（一）

十月三日午後一時又分發電濟

臨時之望叔難似身年工一隊巡遊、技手誠工ニ創ヒテ

復之方其第一二一多實報ヲ以テ訓令セシメ之復鈴木造船

力佐又本補叙師、第五師隊司令部付、轉藏ヒシ

スハシ

海軍 通令第十三行隊編

0785

海軍大臣

第一課

第一課

藤田

海軍大臣

大正十年十月四日

午前十一時四十分
午後一時二十分

舞鶴省着

舞鶴鎮守府司令長官

臨時三笠救難隊行動予定
六日夜浦潮發九日舞鶴歸着
右報告ス

下

北條

藤田

0786

軍務局



海軍大臣

舞鶴鎮守府司令長官

大正十年十月九日午後

七時五分

舞鶴着
海軍省着

經理局



臨時三笠救難隊ヲ解散ス
右報告ス

第二隊長



第二隊長



0787